



環境省における 海洋環境教育に関する取組について

令和5年7月13日（木）

環境省 水・大気環境局 海洋環境課

「学びの地図」を活用した海洋環境教育の実践支援

- ・学校等の教育現場において、環境教育の実践を支援するため、環境省では、環境教育・ESD（持続可能な開発のための教育）実践のためのWebコンテンツ「学びの地図」を作成、公表。海洋に関するものも公表している。
- ・「学びの地図」では、学習指導要領において環境教育との関連性が高い各教科の単元と、ESDモデルプログラム（授業展開例・実践例）とを関連付けて整理しており、検索機能を利用するなどして、効果的・効率的な環境教育の実践に役立っている。

「学びの地図」を活用した環境教育の実践

SDGsゴール14「海の豊かさを守ろう」から検索



SDGsのゴール14「海の豊かさを守ろう」を選択すると、関連する教科・単元とモデルプログラム（例：小学校・高学年の道徳「生命の尊さ」、「干潟の生き物観察から世界を見よう！」）が抽出される。

実施場所「海」から検索



実施場所として「海」を選択すると、関連するモデルプログラムや実践例（例：モデルプログラム「ふるさとのきれいな海を守ろう！」、実践例「（大阪）西鳥の海に行こう」など）が抽出される。

「学びの地図」：http://eco.env.go.jp/lib/env/cn_education/manabi_no_chizu.html



モデルプログラム（授業展開例）

（例）「ふるさとのきれいな海をまもろう！」

7・8・9・10時間 問題	自分たちができることを考えよう 海のゴミをなくすためにできることを話し合う。 きれいな海を守るために自分たちができることは何かをグループごとに考える。 ポスターやチラシ、看板を作るなどの作業を行う。	(ポイント) ・自分たちが誇るだけではなくならないという気持ちから、多くの人に伝えたいという思いを大切に作る。 ・管理者の行政・漁協などとよく相談し、ゲストティーチャーとして授業に参加してもらい、子どもたちにアドバイスしてもらった場を設ける。 ・ポスターやチラシ、看板など、呼びかけるための手だてを考え、製作する場を設定する。 (画用紙・ペンキ・木材など)
11・12時間 問題	ふるさとのきれいな海を守るために行動しよう ポスターや看板をどこに設置したらよいか、チラシなどはどこで配るかを考える。 ポスターや看板を設置したり、チラシを配ったりする。	・ポスターや看板を設置するのは許可や設置場所の地域の人の合意も必要であることも気づくようにする。 ・制作したポスターやチラシ、看板を配布させたり、設置させたりする時間を保証する。 *安全に留意する

モデルプログラムの実践例

（例）大阪「西鳥の海に行こう」（阪南市立西鳥小学校2年生による実践）

・プログラムの目標

「海のゆりかご」といわれるアマモ場の観察により、生物の多様性やつながりを体感することができます。また、人々の生活と海との関係（相互性）に基づき、日常生活において自然環境に配慮しようとする意識を育てます。さらに、地域のアマモ場再生の取組に学校として参加することで、地域の一員であるという意識を育み、地域の方との交流を深めます。そして、地域の自然と人のつながり、地域の文化、自然への愛着などの価値観を身に付けることができます。



アマモの観察をしました。

アマモの種を採集します。

いろいろな色と形の海苔でおしぼりを作りました。

・参加者の声

3年生の発表はくわしく、大阪湾の事がよくわかりました。おもしろい魚がいっぱいいることがわかったので大阪湾の海を大切にしようと思っています。

モデルプログラムの実践による海洋環境教育

地域の身近な海を教材とすることにより、

- 海洋における生物の多様性、● 社会生活と海とのつながり、● 森、川、干潟、海による水の循環
 - 漂着ごみによる漁業の影響、● 気候変動の海への影響 など
- について、探究のプロセスを通じて、深い学びを得ることができる。

海洋ごみ学習用教材

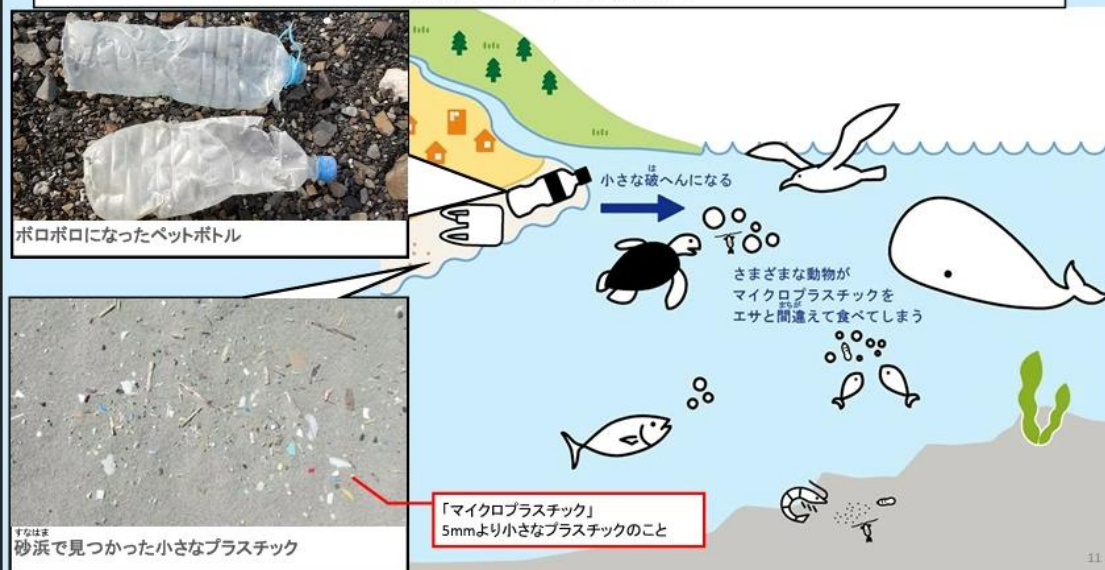


環境省 平成29年度漂着ごみ対策総合検討業務

目次

海辺にあるもの	4
海洋ごみって知ってる？	6
海のごみと川のごみは似ている	7
風と海流によってごみが流れていく	8
海洋ごみが起こす問題	9
海洋ごみ問題の解決のために	12
身近な地域のごみを調査をしてみよう！	15
きれいな海にするために	16
教科及び単元におけるスライド組み合わせ使用例	17

海洋ごみが起こす問題



海洋ごみ問題の解決のために

国際協力

■ G7(先進7か国首脳会議)・G20(先進20か国首脳会議)
海洋ごみ問題が議題として取り上げられ、対応が話し合われている。

■ 国連環境計画(UNEP)の
北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)
加盟国である中国、韓国、ロシアと、海洋ごみに関する情報の共有や海岸清掃キャンペーンを実施するなど、北太平洋西部の海洋環境保全に取り組んでいる。

■ 日中韓三カ国環境大臣会合(TEMM)、日中・日韓などの二国間の国際的な枠組の中で、科学者による海洋ごみのワークショップの開催や共同調査などで連携して海洋ごみ問題の解決に取り組んでいる。



G7 伊勢志摩サミット(2016年5月)

教科及び単元におけるスライド組み合わせ使用例

対象	教科	単元	学習内容	スライド使用例
小5	社会	わたしたちの生活と環境	環境を守るわたしたち	p6・7・9(問題提起) p12(解決のための取り組みの提示)
小5	社会	世界の中の日本	日本とつながりの深い国々 世界の未来と日本の役割	p6・8(問題提起) p13・14(解決のための取り組みの提示)
小6	理科	ヒトと自然	人の暮らしと環境	p6・9・10・11(問題提起) p12(解決のための取り組みの提示) p15(身近な地域の調査)
中1~2	世界地理	日本の周辺国、世界の国々の調査	統計資料からの国の特徴の調査、 「つながり」をキーワードとした国の調査	p6・8(問題提起) p13・14(解決のための取り組みの提示)
中1~2	日本地理	資源と環境	世界と比べてみた日本 環境問題	p6・8・11(問題提起) p13・14(解決のための取り組みの提示)
中1~2	日本地理	身近な地域の調査	野外調査	p6・7・8(問題提起) p13(解決のための取り組みの提示) p15(身近な地域の調査)
中1~2	日本地理	日本の都道府県の調査	いろいろな角度からの調査 テーマを決めての調査	p6・7・10・11(問題提起) p13(解決のための取り組みの提示)
小5~6 中1~3	家庭科	身近な消費生活と環境	環境に配慮した生活の工夫 3R	p5・6・10(問題提起) p12(解決のための取り組みの提示)

海洋ごみに関する普及・啓発の取組

不必要なワンウェイプラの抑制や代替品の開発利用などに自ら取り組み、SNSなどを通じて拡散。また、対話・交流を促進。消費者・自治体・N G O・企業の約3,200件の取組を登録。

●プラスマ特設サイト



プラスチック・スマートを日常に

あなたにとってのプラスマナビ



<http://plastics-smart.env.go.jp/>

●SNS発信 (#プラスチックスマート)



対話・交流を活性化

地方公共団体

NGO・
NPO

研究機関等

企業・
業界団体

環境省

●プラスマシンポジウム 先進事例、連携事例の紹介

日本財団との共同事業

●海ごみゼロウィーク

- ・全国一斉清掃アクション
- 【春】5月27日～6月11日
- 【秋】9月16日～9月24日

※2023年度の期間



<https://uminohi.jp/umigomi/zeroweek/>

一人ひとり、企業、自治体ができること

各省庁・業界団体・企業・自治体・NGOなどの幅広い主体から、海洋プラスチック問題の解決に貢献する“プラスチックとの賢い付き合い方”を募集しています。。

◎ 不必要な使用を減らす

- ✓ 軽量化・薄肉化
- ✓ マイボトル・マイバッグ
- ✓ シェアリング

◎ 使用後は適正処理

- ✓ 分別・選別
- ✓ 再生プラの活用
PET Bottle to Bottle

個人・消費者
民間企業・業界団体
国・地方自治体
NGO・NPO 等

◎ 分解されるものを使う

- ✓ 生分解性プラスチック
- ✓ セルロース

◎ 処理から漏れたら回収

- ✓ 清掃活動（街なか、河川、海岸等）
- ✓ アダプト・プログラム

これら活動に対する啓発イベントやメディアキャンペーン、
海外支援などの取組も募集

- 取組やアイデアの写真・コメントをSNS（Instagram・Facebook・Twitter等）で「#プラスチックスマート」とタグをつけて投稿して下さい。



＜取組やアイデアの例＞

- ・ごみ拾いイベントに参加した
- ・マイバッグやマイボトルを活用し、ワンウェイのプラスチックの使用を控えた



Instagram で
「# プラスチックスマート」
をみる



Facebook で
「# プラスチックスマート」
をみる



Twitter で
「# プラスチックスマート」
をみる

【取組登録について】

「プラスチックスマート」WEBサイト（ [プラスチック・スマート](#) で検索）にアクセスし、
取組登録ができます。



登録はこちら

団体登録、取組登録が
することができます。

<https://plastics-smart.env.go.jp/>

【ロゴマークについて】

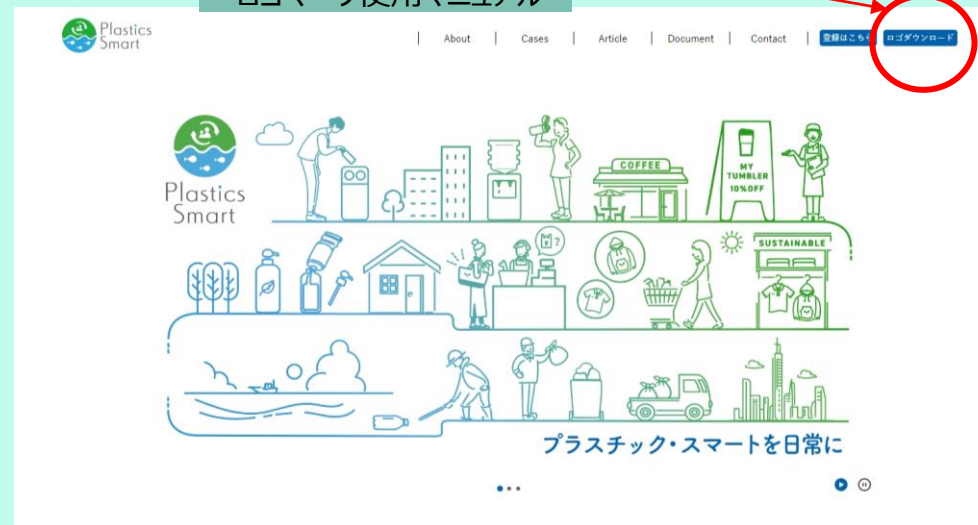
ロゴマークはニュースリリース・商品カタログ・名刺などに使えます。



Plastics
Smart

〇〇は、プラスチックの徹底分別に取り組んでいます。

- ・ロゴマークの使用規約
- ・ロゴマークデータ
- ・ロゴマーク使用マニュアル



● プラスマアクション最新事例 （様々な事例を紹介！取組のヒントにつながる！）



The screenshot shows a grid of six case study images with accompanying text. The main article on the right is titled '海洋プラスチックごみからリサイクルした再生樹脂使用の油性ボールペン' (Oil-based ballpoint pen using recycled resin from ocean plastic waste) by 株式会社パイロットコーポレーション. It describes the use of recycled resin from ocean plastic waste in Pilot pens. The page also includes a 'Category' section (海洋プラスチックごみ) and 'Subject' (企業).

海プラごみ対策の課題や取組のヒントが得られる
プラスチックスマートプラットフォームを構築
→ 更に多くの方々の理解促進につなげる

● Interviewページ（取組の深掘り）

プラスマ登録取組の深掘りを目的として、始めたきっかけ、プロセス、注意点、苦労、成果等を伺うインタビューを実施し、その内容をサイトで紹介



● メルマガ配信 （最新情報を定期配信）



Two boxes of newsletter content. The first is titled 'プラスチック・スマート事務局からのお知らせ' (Notice from the Plusma Smart Secretariat) and lists two items. The second is titled '関連ニュース' (Related News) and lists four items.

1



プラスチック・スマート 7月28日～POP UP 開催

新型コロナウイルスの影響もありイベント開催はしませんが、EQUALAND 様と協賛を以て100周年イベントを開催します。

プラスメルマガでは環境問題の解決に向けた、イベントやシンポジウムのご案内、プラスチック・スマートの関連情報などをお知らせ。取組登録時にメルマガ登録も同時に完了

● Educationページ (海ごみ関連資料、ツールの掲載)



「プラスチック・スマート」キャンペーン実施中!!

今、世界では...

海洋プラスチックごみ問題
 ● 海洋プラスチックごみによる海洋汚染が世界規模で拡大
 ● 北極や南極でも、マイクロプラスチックが観察される
 ● 報告も増える

低減される被害
 ● 生態系や生物多様性への被害
 ● 観光・漁業への被害
 ● 気候変動への被害
 ● 資源枯渇・汚染への被害

例えば、全国でこのような取組が盛んになります。

「プラスチック・スマート」キャンペーンの登録例

<p>① 環境省 資源循環推進課 【国土・国土・国土】</p>	<p>② ECO-Shop 【社会福祉協議会】</p>	<p>③ ペットボトル回収機 【株式会社】</p>
<p>④ 「サステナブル」の取り組み 【株式会社】</p>	<p>⑤ 「ハッピーグリーン」プロジェクト 【株式会社】</p>	<p>⑥ 海のシェアリングエコノミー 【株式会社】</p>

あなたも身近なところから始めてみませんか? ~プラスチックとの正しい付き合い方~

正しい使い方を身につけて
 学校や職場で実践しよう
 海外でのレジラーの際に、ごみを捨てる

ぜひご登録ください!
 あなたの取り組みをSNS (X(旧Twitter)・Facebook・Twitter) などで「プラスチック・スマート」で発信しよう



学習用教材



海洋プラスチックごみと私たちの関係

ペットボトルやコンビニの弁当容器、箸やスプーンに代表されるプラスチック製品は、便利で使い捨てが可能なことから世界中で利用されているプラスチック。それが年々増加し、地球に大きな影響を及ぼしていることをご存知ですか?

現在、海に漂着するプラスチックごみの量は世界中で年間約800万トンに達すると推定されています。2025年には毎年約1億トンに達すると推定されています。プラスチックごみの増加は、海洋生態系に大きな影響を及ぼしています。

「海に漂着するプラスチックごみは、私には関係ない」と思うかもしれませんが、実は、海に漂着したごみの約8割は「漂着したごみ」が原因で、その約半分の量が海に漂着しています。

また、海洋環境を汚染しているのが「マイクロプラスチック」です。マイクロプラスチックはプラスチックごみが分解・劣化してできる非常に小さな粒子で、そのほとんどが海に漂着しています。また、マイクロプラスチックは海洋生物の体内に蓄積することも懸念されています。

日本では、すでに海に漂着したプラスチックごみの回収活動が盛んに行われています。また、マイクロプラスチックの回収活動も進められています。しかし、それでもまだ回収できていないプラスチックごみは、毎年約1億トンに達すると推定されています。そのうち、約半分の量が海に漂着しています。そのうち、約半分の量が海に漂着しています。

ごみを適切に処理して、ごみを減らすことが、ごみを減らすことにつながります。

ごみ減らすための取り組み
 このプラスチックごみは、ごみ減らすための取り組みです。ごみ減らすための取り組みは、ごみ減らすための取り組みです。ごみ減らすための取り組みは、ごみ減らすための取り組みです。ごみ減らすための取り組みは、ごみ減らすための取り組みです。

ハンドブック

登録取組総数約3,200件（2023年5月時点）

登録取組の一例

ペットボトル自動回収機

©セブン&アイ・ホールディングス



マイボトル用ドリンクサービス

©BOTLTO



プラスチックごみを削減したラベルライター

©カシオ計算機株式会社



ヘアケア・食器用洗剤ボトルで海洋廃棄プラスチック削減

©P&Gジャパン/テラリサイクル



繰り返し使えて最後は土に還るラップ「aco wrap」

©aco wrap



傘のシェアリングエコノミーによるビニール傘の削減

©アイカサ



- 海ごみ問題解決に向けて、環境省のPlastics Smartや日本財団のChange for the blue等の取組で醸成された機運を一層高めるため、2019年（平成31年）より共催による「**海ごみゼロウィーク**」をスタート。
- 5月30日「ごみゼロの日」、6月5日「環境の日」、6月8日「世界海洋デー」の3つの記念日を含む期間で「春の海ごみゼロウィーク」、9月に実施される「World Cleanup Day」からの約1週間の期間を「秋の海ごみゼロウィーク」として実施。2022年は700カ所、26万人が参加

海ごみゼロ ウィーク

UMIGOMI Zero WEEK



全国一斉清掃活動「海ごみゼロウィーク」
©日本財団、環境省

2023年

【春】 5月27日(土)～6月11日(日)
【秋】 9月16日(土)～9月24日(日)

ローカル・ブルー・オーシャン ビジョン推進事業

- 海洋ごみの回収・発生抑制の実効性を高めるため、自治体と企業等の連携による自走性ある取組の実証を支援し、海ごみ法に沿って広く展開。
- 漂流漂着ごみの回収処理負担の軽減や地域の魅力向上にも貢献。

事業スキーム



- ① 海ごみ対策を売りにした地域ブランドや、地元企業の海ごみ対策技術の活用など、**地域の特徴に合った事業プラン**策定
- ② **企業と自治体をマッチング**し、連携体制を構築
- ③ 地域住民の海ごみ問題への**理解を増進**し、住民を巻き込んだ地域おこしで**需要・参加を喚起**
- ④ 海ごみの回収や発生抑制の実効性向上の**効果・課題を事後検証し、PDCAサイクルを回す**
- ⑤ **海ごみ対策法に基づく計画・対策のモデル**として一般化し、全国各地域での実装を促進

事業実施例

- ① 代替素材等やリサイクル品の開発・啓発等



ポリタンクをアップサイクルした製品を活用した啓発
@山口県

- ② エコ容器使用、回収、リサイクルによるごみ発生抑制（内陸部での取組）



イベントにおける回収・リサイクルシステムの構築
@弘前市

- ③ 「ナッジ理論」の活用と実践によるごみ排出抑制



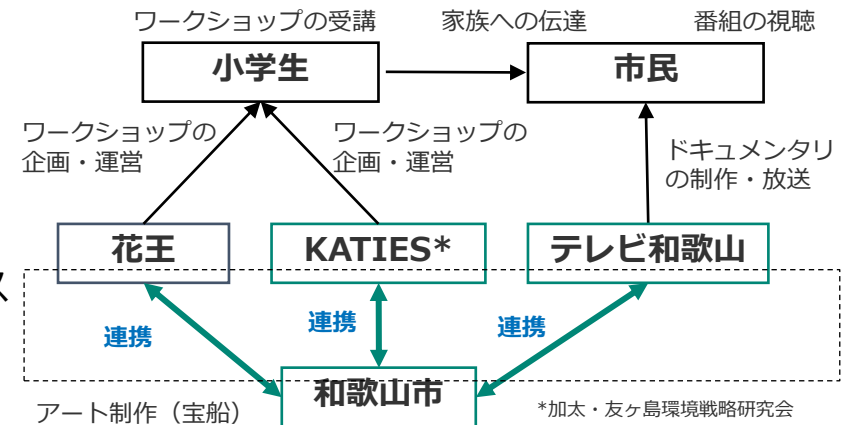
観光客をごみ拾い側にするイベントの実施
@和歌山市

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン（2050年海プラ追加汚染ゼロ）」実現に向けた具体的アクションとして、国内外に広く発信。

取組の目的

■対象 市民、小学生

- 目的 人々の海洋ごみに対する意識を変革する体験デザインの創出をめざし、アート船の制作プロジェクトと教育プロジェクトを実施。一連の様子をマスメディアで発信。昨年度の成果も活用しながらコンテンツの拡張を図る。



取組の概要

- リサイクル 回収した海洋ごみによるアート作品の制作
- 普及啓発 市内小学生に向けた海洋ごみワークショップの実施とシンボルキャラクター（ウミプラー）との連携、一連の取組をTVにて紹介
- 清掃活動他 地ノ島（無人島）での海洋ごみの回収と啓発用資材・アート資材への活用、ワークショップでのアンケート



成果と課題、今後の展開

- 成果
 - アート制作と啓発番組の放映
 - 小学生向けウミプラーワークショップの試行
- 課題
 - 教育機関向けプログラムのブラッシュアップによる自走性の確保
- 今後の展開
 - ウミプラーを活用した取組の普及と深化



取組のポイント

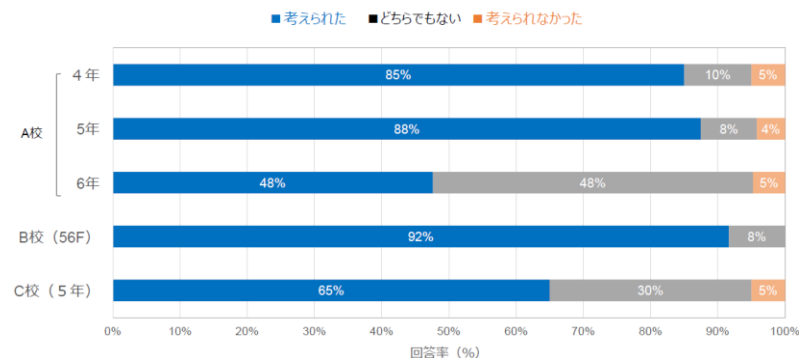
- 動機付け 市の観光資源である友ヶ島に堆積する海洋ごみの現状と課題の共有に加え、「ウミプラー」というシンボルの設定や目指したいゴールが関係者間で具体化されている。
- 事業性 「ウミプラー」コンテンツは市の魅力発信やツーリズムに活用できる可能性がある。
- 横展開 学習コンテンツの横展開に加え、各地独自の「ウミプラー」の創出による「ウミプラー」をコミュニケーションハブとしたネットワーク形成が期待される。

効果測定

- 方法 ワークショップに参加した児童へのアンケート

- 結果 半数から9割の児童に対して日常の行動について考えるきっかけとなったことが示されており、「振り返り学習」や「漂着物の分別」の実施にて誘起されたことが示唆された。

今回の活動をすることで、ウミプラーのような悲しい思いをしているプラスチックをなくすために、自分にできることを考えられましたか？



児童へのアンケート結果（実施校別）

今後の取組イメージ

■ 学習コンテンツのブラッシュアップ

関係機関と協力して、学校教育の現場から求められる内容に改善を図り、自走性のある取組とする。

■ 地域間交流の促進と魅力向上

他の自治体と共に運営側も楽しく参画しながら学びの多いコンテンツとして発展させ、地域間交流の促進やツーリズムへの溶け込みによって地域の魅力の向上や発信を図る。

■ 海洋ごみ回収の概念の変革に向けて

海洋ごみに対する新たなモノの見方（意識）を創出し、海洋ごみ回収の概念自体を変えていく仕掛けづくりを継続していく。

